



代表取締役社長・今野康正さん。背後に見えるのは東北の母なる川・北上川

KLSの歴史は長い。1927年、映写用ランプや投光用ランプを製造する近藤電気工業所として創業。68年、GTEシルバニア社と合弁。92年にはGTEシルバニア社との合弁契約を解消し、フィリップスライティングホールディングB.V.と合弁契約を締結したが、2006年にフィリップスライティングホールディングB.V.から独立した。

「職場全体に受け身で仕事を進める体質が広がっていました。この状態が続けば、顧客に満足してもらえる製品を届けられなくなると危機感を持っています」

そう話すのは河北ライティングソリューションズ（以下、KLS）代表取締役社長の今野康正さんである。研究開発や生産設備の新設・改修などを担う取締役品質技術本部長の酒井基裕さんもその思いをより強く持っていた。2018年ごろのことだ。

KLSの歴史は長い。1927年、映写用ランプや投光用ランプを製造する近藤電気工業所として創業。68年、GTEシルバニア社と合弁。92年にはGTEシルバニア社との合弁契約を解消し、フィリップスライティングホールディングB.V.と合弁契約を締結したが、2006年にフィリップスライティングホールディングB.V.から独立した。

「会社として約半分の年月を大手電気メーカーの工場として事業を続けてきました。OEMが事業の柱だったので受け身体質になっていたので、順調に推移してきましたが、ようね。当社はハロゲンランプなど特殊光源の製造を得意分野にしており、順調に推移してきましたが、そのアプリケーションの需要が減少する傾向にありました。独立するとたので受け身体質になっていたのでしなければなりません。その切り替えがうまくいっていないとも感じていました」と今野さんは当時振り返った。

流れのままにしていたわけではない。状況を変えるために経営陣は現場へ指示を出した。

しかし、現場は動かなかった。現場を預かる製品開発グループ次長の布谷裕さんは当時の状況をこう話す。「上からはいろいろ言われますが現場は現場で忙しい。そうであるのに次々と指示がくる。経営側と現場と

**経営側の思いと
現場の実情のギャップ**

酒井さんは会社の雰囲気を変えること。KLSに中途入社した酒井さんの前職でKーを導入した経験があったことも支援導入の後押しとなりました。

外からの風を入れるという意味だけだと考え、JMACの支援を受けることを決意した。

このままでは同じことを繰り返すことは、「一人前の技術者」を育成できなかったですね。現場は個で動き、個の経験で仕事を完結していました。そのような状況下で、新しい技術が必要な製品もつくるようになり、現場が回らなくなることも出ていました」と今野さんは当時振り返った。



社内の意識改革を主導した取締役品質技術本部長・酒井基裕さん



現場を預かる製品開発グループ次長・布谷裕さん



河北ライティングソリューションズ株式会社

声を掛け合い自ら行動する 一人前の技術者集団へ

社内コミュニケーションの活性化、次世代を担う若手技術者育成などを目的に2020年に技術KI®（以下KI）*を軸とするJMACの支援を導入した河北ライティングソリューションズ。少しずつであるが着実に意識改革に取り組んできた。その成果が現れ、積極性も増し、活気にあふれている。課題への取り組み、成果について聞いた。



1927年近藤電気工業所として創業。2006年にフィリップスライティングホールディングB.V.から独立。ハロゲンランプなどの開発、製造と販売から半導体製造のシリコンウェハー加熱装置、医療機器用LEDなども手掛ける。

河北ライティングソリューションズの課題

コミュニケーションの活性化

若手技術者の育成

知見と経験の伝承

*技術KI®（Knowledge Intensive Staff Innovation Plan）：「ナレッジワーカー」の日常業務を「チームワーク」を活かした「オープンマインド」で「互いの仕事の中身や思考が見える」仕事のスタイルに変えることにより「生産性」と「創造性」を高め、「組織風土の活性化」を実現するJMACオリジナルのコンサルティングプログラム。

